

【石綿(アスベスト)】

当社の建物及び設備の一部に使用される石綿のうち、飛散性のある「吹き付け石綿」は全ての使用箇所にて飛散防止対策を完了しています。飛散性のない石綿含有製品については、修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品への取替えを進めています。



詳細は「九州電力」
 > 関連・詳細情報 (P2参照) > 石綿の使用状況

緑地や希少生物の保全

生物多様性に配慮しつつ九州の豊かな自然を守り続けていくため、社有林や発電所緑地の適切な管理や、九州で絶滅が危惧される身近な動植物を保護するための取組みを推進しています。

【社有林等の適正管理】

当社は、水力発電の安定した水源確保を目的として、阿蘇・くじゅう国立公園区域内を中心に4,447ヘクタールの社有林を適切に維持管理し、水源涵養やCO₂の吸収など、森林の持つ公益的機能の維持・向上に努めています。2005年3月には、適正な森林管理が行われていることを認証するFSC(森林管理協議会)の「森林管理認証」を、国内の電力会社で初めて取得しました。

【社有林によるCO₂吸収固定】

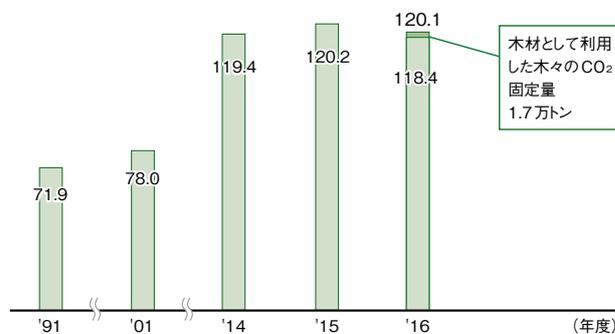
社有林により吸収固定されるCO₂は、木材として利用するために伐採された木々が固定しているCO₂量1.7万トン差し引いても、社有林全体で118.4万トンと算定しています。



社有林(山下池周辺(大分県由布市))

《社有林によるCO₂吸収固定量》

単位：万トン-CO₂



(注1) 森林調査に基づく実測値から日本国温室効果ガスインベントリ算定方法に基づき算定。
 (注2) '01年度までのCO₂吸収固定量には樹齢15年以下の若木分は含まない。

絶滅が危惧される希少動植物の保護に関する取組み

地球上の生物は、判っているだけで約175万種、未知の生物も含めると3,000万種とも推測されています。そのうち毎年4万種が絶滅しているとも言われており、絶滅の脅威にさらされた野生生物の種の保存は、地球レベルで緊急に取り組むべき重要な課題となっています。このため、当社では九州で絶滅が危惧される身近な動植物の保護に取り組んでいます。

【発電所更新工事における希少植物への配慮】

宮崎県の耳川水系の中流域に位置する塚原発電所(63,050kW)の更新工事に伴い実施した環境アセスメント(環境影響評価)の植物調査で、対象区域内において絶滅危惧種であるキエビネ、キンチャクアオイや準絶滅危惧種であるシランの生息を確認しました。これらの保護を目的に、工事を開始する前に他の場所への移植や種まきを行い、3年間にわたる保全措置を通じて、全ての危惧種が、根付いていることを確認しました。



キエビネ



シラン

用語集をご覧ください

- 大気汚染
- NOx(窒素酸化物)
- 温室効果ガスインベントリ
- 水源涵養
- 土壌汚染
- PCB(ポリ塩化ビフェニル)
- 水質汚濁
- 富栄養化
- FSC(森林管理協議会)
- PRTR(制度)
- 環境保全協定
- 赤潮
- 森林管理協議会)
- 指定化学物質
- SOx(硫酸酸化物)
- 選択取水
- 森林管理認証
- 石綿(アスベスト)
- 生物多様性
- 絶滅危惧種
- 吸収固定
- 社有林